

は
じ
め
て
の
人
に

高橋信次先生の法を学ぶ会

【はじめての人に】

丸山弘

いま貴方様には、この『はじめての人に』を広げられ、偉大なる主・高橋信次先生には、御命がけてお悟りになられ、私達衆生に対して、お説きくださいました偉大な正法を学ばせて頂く第一歩を踏み出されましたことは、誠に嬉しく心よりお悦び申し上げます。

そこで、まず正法を学習、精進するうえで大切なことは、正法の正しい学習の在り方と、如何なる困難に遭ってもひるむことなく、挫けない根性が大事であります。

高橋信次先生には、『鉄は熱いうちに鍛えよ』と言われているように、正法の学習もまた心が熱く燃えている間に、休むことなく根気良く学習することが大事と、お導き頂いています。

学習の順序といたしましては、正法の入門の書であります、ご著書『心の発見・神理・科学・現証篇』と『人間釈迦・第一部から第四部』を、予め毎日五頁または一〇頁を必ず拝読することを決め、その日から毎日如何なることがあるうとも、決して初めに誓ったことを破ることなく、毎日その決めた頁を、最低一回以上何回でも拝読してください。

拝読する順序は、まず『心の発見』を、神理篇、科学篇、現証篇の順序で拝読してください。

また、『人間釈迦』は、第一部から第四部までをその順序で拝読してください。

貴方様が、ご著書を拝読されている間、偉大なる主・高橋信次先生には、ご著書の一字一句を通して、直接貴方様の心に深くお導きくださるのでございませう。何とぞ身も心も正されて真剣に拝読してください。

拝読の仕方は、貴方様にはこれまで書物を読まれる時、その意味を自分流に理解しながらお読みになられたことと思いますが、高橋信次先生のご著書だけは、絶対に自分流に解釈をしながら拝読しないでください。

お書きくださったっている字の通りに、肉眼で声を出して拝読されると同時に、もう一つの心の目でも、同じところをその儘拝読してください。二つの目で拝読いたしますと、より深く、より正しく拝読することが出来るようになります。

もしも、自分流に解釈しながら拝読されますと、光ある偉大な御教えも、貴方様の考えの入った思想に変わってしまうのです。当然のこと、それももう神理ではなくなり、したがっていくら拝読しても、それによって救われることはありません。

拝読される中で、全くその意味が分からないところは、分からない儘、その通りに拝読してください。理解出来ないところは、別のノートに書き出す等して何回も拝読しているうちに、次第に理解出来るようになります。また、拝読する一つの工夫として、特に感激、感動したところには赤線を引き、次はその赤線を引いた所で、さらにより深く感激、感動した場合、こんどは青線を引く、次はその青線のところで、さらに、感激、感動されたら、また違った色の線を引く等工夫をしながら拝読してください。さらに、その感激、感動したところを、その都度ノートに書き出しておくと、後に再び学習することが出来ますので大変良い方法と思います。

拝読するに際して、その日の気分によって決められた頁よりも多く拝読したり、またある日は、疲れたことを理由に、放棄してしまうようなことは、絶対にお止めください。

偉大な高橋信次先生には、尊い御命を削られるようにしてお悟りになられ、私達衆生に対して大きな大きな永遠の宝をくださっているのです。このような尊い法を拝受するには、拝受する心がけなり、人間神の子として

の道、最高の礼儀を尽くすことが、偉大な法を拝受する者としての当然の常識、礼儀、報恩感謝を捧げる道ではなからうかと思ひます。

私達は、一人の神の子として、特に只今選ばれて、深遠なる神の御心に
出会わせて頂くという、またとない有り難い法縁を頂いていることを心か
ら有り難く感謝しなければならぬと思ひます。

そして、常に神仏を怖れる心、謙虚な心が大事と思ひます。

一しずくの雨垂れも、何時の日か下の石に穴をあけるが如く、『一念何
事か成らざらん』の気概を持って、赤く熱した鉄のような熱い心の間に我
が心を鍛えてください。必ずや仏智が頂けるようになるものと思ひま
す。

ご著書は、一般の書物とは違い、拝読すればするほど、心からの新たな
感激と感動で心が揺さぶられ、これまで何回も拝読したのに、初めてこの
ような素晴らしいことに気付かせて頂くなど、次々新たな感激、感動に出
会う、言ってみれば誠に誠に不可思議なご本であります。

一般の書物は、科学関係ならびに真理関係以外は、その著者の考えを中
心としたものが殆どのように思ひます。

偉大な主・高橋信次先生のご著書は、地球上では唯一の存在であり、偉
大な神の御心を説かれた神の光に満たされた尊い尊いご著書であります。
決して粗末な保管をされないよう心がけてください。

地球上に住む約六〇億の魂のすべての心が、すべて偉大な主（仏陀）と結ばれ、神に通じているのであります。このことも人類史上初めて高橋信次先生には、お説きくださったのでございます。

これらのことは、すべてご著書の中にお導き頂いています。

私達地上界に今生命を頂いているすべての魂は、夜睡眠中に実在界に行き、今日生きるためのエネルギーを神から頂いているのであります。頂いているエネルギーのお陰様により、こうして勿体なくもいま生かして頂き、魂の修行の機会をお与え頂いているのであります。

また、すべての地球上の人間の魂の中心である心は、神に通じているため、如何なる人間もすべてが自分自身の善なる心・良心に、絶対にウソをつくことが出来ないことを、お教え頂いています。

人間は、すべて神のもと、皆神の子であります。皮膚の色が違おうが、言葉が違おうが、皆兄弟姉妹であります。すべてが、神の御心を心として、皆相互に助け合い、生かし合い、許し合い、補い合い、思いやり合うことが大事なことに気付かねばならないのです。

あの天空に輝く太陽の熱、光は、偉大な神の大慈悲であります。すべての生きとし生きるものすべてに對して、偏ることなく、変わることなく、平等に、しかも永遠にお与えくださっているのです。

このような真実を知るとき、人間神の子同士が相争い、殺し合い、憎み

合うことは、神仏に対して、弓を引く恐ろしいことに気付かねばならないのです。

すべての人類は、すべてが相互に助け合い、許し合い、飢えや病苦に苦しむ人達を助け合い、名譽、地位、財産、お金や物にとらわれることなく、一瞬一瞬が生涯であることを知り、神に対して、主に対して、報恩感謝の信（まこと）を捧げる生き方に我を捧げることが、真に正しい生き方であることに気付かねばならないのであります。

肉体はほんの一瞬一瞬の連続の中に生かされている乗り舟にしか過ぎない存在であります。私達の魂である永遠の生命は、永遠に滅することのない生命であります。

偉大な主・高橋信次先生には、一九七六年六月二五日、予言された通り、ご昇天されたのでございますが、その日には、毎年必ず金沢の地において同志相集い『高橋信次先生に捧げる感謝と誓いの会』を開き、新たな心でこの一年間の感謝を捧げ、来たるべき一年は、常に報恩感謝を捧げ、一人でも多くの神の子たちに対して、法を伝道させて頂くことを、お誓いしています。

偉大な主・高橋信次先生には、すべてのご著書を通し、またはビデオやカセットを通して今も私達の心には法をお導きくださっておられます。

『何をなすべきかということよりも、まず人生とは何かということを知りなさい』と。

ビデオやカセットによるご講話の拝聴に際しては、とかく生のご講話でないという思いにより、安樂の中で拝聴する嫌いがありますが、決してそうではなく、ビデオやカセットを縁として、直接貴方様の心に語りかけてくださっている偉大な慈悲に対して、心からの感謝を捧げながら、真剣に学習されるのが肝要と思います。

ご著書を拝読することにより、または、ビデオやカセットによりご講演を拝聴させて頂き、法を知識として学び、理解された次の段階として大切なことは、いま自分の心の中にある神とは、果たして正しい神であろうか、これまで幾多遍歴して来た宗教や、国の思想等による神を真の神として信じて来なかっただろうか、その他の神や仏等を信じて来てはいないだろうか、一日も早く点検反省されるのが大事であります。

いま貴方の心の中に唯一の神が存在していますでしょうか。心に正しい神や仏がなくては、いくら『心行・祈願文』を唱え、崇めても、神仏に通ずるものではありません。常に自分の心の中に、正しい神仏があるか、信じているかを点検して見てください。もしも未だに自分の心の中には、厳然としてこれまでの神や、その他の信仰がしっかりと生きづいていたら

ば、これまで以上に心を正し、感謝の心で、この一瞬一瞬の生涯を法の学習に捧げる心で、より真剣にご著書の拝読を始め、補完的教科書である既刊月刊誌『ほくりく』と『ひかり』誌を求められ、学習と実践努力を積み重ねてください。

この基礎の学習がしっかり出来ていないと、その上に、これから積み重ねて行かねばならない法による自己確立は、大変不安定なものとなります。偉大な高橋信次先生には、この時期の学習と精進については前述いたしました。ですが、重ねて申し上げますが『鉄は熱いうちに鍛えよ』と、お導きくださいています。心が熱く燃え上がっている時期を逃してしまつと、その後いくら努力しても、鍛え直すことは不可能とお教えくださいています。また、私達人間神の子は、すべてが毎夜神から生きるためのエネルギーを頂き、生かして頂いているにもかかわらず、間違つた神や信仰などをして来たことは、愚かにも神仏を冒瀆して来たことであり、今後何百回も、何千回も、神と主（仏）に対して、反省と謝罪を捧げ、心の中から消すよう精進努力をしてください。

但し、講師の指導を頂くまでは、これまで通り、これまでの神や信仰をその儘続けてくださって結構です。但し、緊急を要する靈的障害などの場合は、その旨講師に申し出てください。

次に、心から法が信じられるか、信じているかというところが大事であります。よく道半ばにして、法について迷っている方を見受けることがありませんが、それは、最初の基本の学習精進の努力が足りなかったためではなからうかと思いません。

ご著書を拝読する心得として、初めから盲信や狂信することなく、むしろ本当だろうか、といった疑問追求、疑問追求の心で学習されることが大切であります。そして、これまでの自分自身の間違った見方、聞き方、思い方を始め、信仰などを正すため、必ず定例学修会やまたは他地区の学修会にも出来るだけ参加されて、一日も早く正しいものに修正されるよう努力しないとは、どうしてもこれまでの長い他力信仰の習性などにより挫折するようになりません。

正法は他力ではありません。己に打ち克つ、という自力による修行の世界です。

見ることも、聞くことも、また思うことも、人それぞれ千差万別であります。同じ物を見て、見ている人の次元により、見方や聞き方なり思い方が異なります。同じ事を聞いても、正しく聞ける人と、自分流に聞く人がいます。また、全く聞けない人もいます。また、それ以上に、一言聞いて十を理解する人もいます。また、聞いた、聞かない、聞かない、聞いて、というような、正しく集中して聞けない人もいます。

飛び飛びに聞いていた人は、聞いていない時は、自分の心の中で何か他のことを考えている人なのです。このような人は、生まれて今日までの間、何かの都合により両親から豊かな愛情を頂くことが出来ない環境を選んで出て来られた人に違いないと思います。

しかし、そういった環境を選んで生まれていることを知るとき、これらの精進努力を命がけで努力して行かれれば決して不可能はないのであります。

正法を学修精進される人には、絶対に不可能はないのです。すべて可能であります。もしも不可能に苦しむ人があるとすれば、それは、その人ご自身の精進努力が足りないためによるものであります。

集中して聞けない人には、これまでの人生の中で自分中心の思いや行いにとらわれ、大変苦しんで来た人が多いように思います。自分のことだけが精一杯で、周りの人たちを心から思いやれる、愛する、心に『ゆとり』がない人ではないでしょうか。でも落胆されることはないのです。これから希望を持って正法の学修と精進を積み重ねてください。きっと悦びとともに勇氣と希望とが心に溢れる人間となられることでしょう。

次に、正法を学修、実践する、その実践について申し上げたいと思います。この実践方法も、今日まで幾多の修行者の素晴らしい体験が、既刊の

『ほくりく』誌ならびに『ひかり』誌の中に多数掲載されていますので、熟読され、今後の実践と精進に生かしてください。

ここでは、基本的な作業として、自宅を始め公共の施設等、人の最も嫌がる場所等の清掃奉仕を毎日実行するなど、他人様に喜んで頂くことにより、自分自身の心もまた嬉しく、明るくなり、次第に悦びの心や、感謝の心が芽生えるようになり、暗かった心も次第に自信が生まれるにしたい、心の底から明るくなって行くようになります。

そしてまた、他人様によって、何時もお世話様になっていたり、他人様のお陰様で着るもの、食べるもの、すべてが与えられていることに気付くようになり、多くの人々のお陰様により、こうしてこのように今、今というこの一時一時を生かして頂いていることが心の底から感謝と同時にこうしてはおれない、自分自身も出来る限り、他人様に報恩感謝の奉仕を捧げねばならない、さらには、偉大な神仏のお陰様によって、こうしてこのように平安に生かして頂いていることが、心から深く分かって来るようになるのです。また、人によって、これまで長い間病弱な体であったものが次第に健康にならせて頂いた人もおられます。一つ一つの実践を通し、すべてにおいて自分に打ち克つという根性を作ることが大切と思います。

今日偉大な主・高橋信次先生の御名を知っておられる人やあるいはまた

そのご著書を拝読されたと言われる人等、先生について語る人は、いまや世界中に多数おられるようであります。

過日、ブラジルにおられる法友からお聞きしたお話ですが、サンパウロから約三千キロ離れた僻地で農園を経営しておられる友人に法をお伝えしたいと思ひ、航空機と鉄道とバスとタクシーとを乗り継ぎ、乗り継ぎしてようやくたどり着き、法についてお話し申し上げたところ、その友人が一冊の古ぼけた『原説般若心経』を持って来られて、これまで長年の間、この尊い御教えを拝読したお陰様で、幾多の苦難を乗り越えて来る事が出来た、という涙ながらの悦びのお話を逆に聞かせて頂き、自分自身の知ったかぶりの増上慢の思ひ上がりを大変恥ずかしく思うとともに、偉大な高橋信次先生の尊い御教えは、如何なる地球の偏狭の地であろうとも、心在人から、心在人の心へと伝わり、そしてその地域を光に満していることを知った。そしてさらにさらに偉大な主・高橋信次先生には、計り知れない偉大なお方であられることを、さらに深く心に思わせて頂くことが出来ました。というお話をされました。

今日、偉大な主・高橋信次先生を語る人は非常に多いと聞いております。誠に嬉しく嬉しく、有り難く有り難く思います。

高橋信次先生には、かつて金沢に於いてご講演をされたとき、『北陸地

方に出ている人は、五人に一人が法に帰依することを天上界で誓って出て来ている』と申されました。その地域によって異なるようですが、少なくともあらゆる方法により、このように『今生、正法に帰依することを誓って出て来ている人達を、何としてでも法へとお導きしなくてはならない』と思います。

しかしながら今日では、法を求めて来られる人が大変少ないうえ、悲しいかな、高橋信次先生を語る人の数だけ、法から外れた話を正しいものと思われている人が多いように思います。

高橋信次先生のみ教えを、正しく学修しているグループと言われるのですが、その実態は、そこには高橋信次先生がお説きになられた法を基準とした学習と精進をしていないものが殆どのように思います。

最もひどいところは、高橋信次先生には、ご昇天されて既に二六年も経ており、その教えは現代にはもう通用しない、と言っているグループもあるようです。

しかしそういったことは絶対にありません。

あの天空に輝く太陽の熱・光は、唯一であり、永遠に片寄ることなく、変わることもなく、不動のもと、生きとし生きるすべてのものを、無償で生かし続けてくださっているのと同じく、法もまた、我々神の子人間に対して、永遠に不変、普遍、不動であります。

偉大な主・高橋信次先生には、

『人類は皆兄弟であり、同じ太陽のもとに生活をしているのです。宗教は一つなのです。ガンガの流れも、ヨルダン河の流れも、未だかつて方向は変えていないのです。時代の新旧によって道は変わらないのです』

と、お導きくださっていますように、法は永遠に普遍、不変、不動であります。

しかし、正法に帰依したと言いながら、まずご著書を自分流に拝読し、理解すると、高橋信次先生には、お悟りになられてお説きになられた偉大な法とは、全く異なった思想に変わってしまったのです。ですから、高橋信次先生が説かれた法だと言われても、すべてが正しいとは言えないということがお分かりになられるものと思います。

何故どうしてわずかな年月の間に、このように法が曲げられるようになったのか、その原因について、ご著書『心の発見・神理篇』一八三頁に、次のようにお導き頂いています。

『正しい神理に適う、各人の心の悟りが社会集団を構成し、その中から調和のとれた相互関係が生まれて来るであろう。正しい生活の中で、対人

的な嘲笑や、恨み、妬み、そしり、怒りなどの思いは滅せられて行く。大
自然の無限の慈悲に対しての報恩の心と行為が、平和な安らぎの光を、
人々の上に現象化して行くのである。

神仏は万象万物を、すでに人類修行の場として与えているのであるから、
祈るよりは感謝の生活を具現することが大切なのである。己自身の魂が、
実践行為による努力をしない限り、神理に適った修行は出来ない。すなわ
ち、修行は、一秒、一秒の連続の中の正しい生活の中に存在していること
を悟らなくてはならない。

神社仏閣に行つて神仏に祈ることが信仰ではないのだ。祈りの心を持ち
続けることが本当の信心であり、神仏の心を己の心として生活することに初
めてこの心の尊厳を悟り、心の眼が開かれ、観自在の力を発揮することが
出来るのである。

科学者が科学を通じ、芸術家が芸術を通じ、文学者が文学を通じ、スポ
ーツマンがスポーツを通じて得た神理も、神に通じるものであり、そうし
た生活の中で人間らしく調和されてこそ本当の神理であることを悟らな
くてはならない。学問化した哲学的宗教は実践に乏しい。神理を悟らずに
座禅しても、煩惱を滅するために肉体行をしても、無意味であり、神理を
悟って実行する中に本当の生活がある。

その神理は、自分自身の生活環境の中に存在しているのであり、その姿

こそ本当の信心である。
は、生活と結びつかない信仰は、すべて宗教としての存在価値はない。それは、正法を悟っていない人々の行為といわねばならない。それ
り、責任は他にはない。その原因を追求し、その根本をとり去る。心の反
省の中から前進があるのである。毎日の生活が調和された中には、常に神
仏の光によって保護されるものである。そしてそこには不幸は訪れてはこ
ない。それは、正しい生活の実践の中に積み重ねられて行くものなのであ
る。」

大事なことは、偉大な高橋信次先生には、尊い御命を削られるようにさ
れてお悟りになられ、お説きくださいました法を基準として、指導してい
る所で学び、実践することが最も大事なことであることを知って頂きたい
と思います。

かつてインドの地において、ゴータマ・ブツダ様・お釈迦様が法を説か
れて約二千五百年、イエス様がイスラエルの地において道を説かれて約二
千年経過した今日、その教えは、既に形骸化してしまいましたが、それよ
りも高橋信次先生には、道を説かれて約三十二年にして、もう既に高橋信
次先生と、申し上げる人の数ほど思想化してしまった教えが横行している

姿は余りにも申し訳のない、悲しい窮みであります。

このようなことになった原因について、人はかつてのインドの時代よりも、あるいはイスラエルの時代よりも、遙かに現代は文明が進んでいるからこうなった、と言われる人もいますが、私は、何時如何なる時代であろうと、人の善なる心は変わらないのであって、一に偉大な光の指導靈であられるお方がこの世にお出ましになられ、衆生は雲霞の如く光を求め、集い来たったにもかかわらず、その大方の人たちの心は、既に、新興宗教等により毒されていたため法がわずかの間に曲げられてしまったのではなからうかと思えます。

悲しいかな、このような実態になることを、既に偉大な主・高橋信次先生には、お見通しておられ、『今後如何なる事態が起きようが必ず守っていく。今の儘で良いから、思いの儘勇気を出して法灯を守っていくように』と申されたのでございます。

また、早くから組織についてもご高導を賜り、『屋上屋を重ねるような組織』にしてはならない、『ひかり』誌表紙に現してある『光に満たされた心の断面図』の如く『七条の光に満たされた地上に、愛の光を拡げて行く組織図』を定めさせて頂いたのでございます。

このことが、『高橋信次先生の法を学ぶ会』として、

「当会は、高橋信次先生がお説きくださいました法を学修実践するため、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓約した人たちの集まりであります。偉大な主の御心のままに、地の果てまで一人でも多くの人々に正しく法を伝え、永遠に法灯を絶やすことのないよう、光の母体としての使命を目的とする組織であります」

と、明示されたのであります。

偉大な主・高橋信次先生には、私達がお捧げしたことでお悦びになられる道は、唯一つ、法をお導きくださいました通り正しく実践し、その体験した悦びを周りの一人でも多くの人々にお伝え申し上げ、永遠に法灯を消さないこととあります。そのためには、人の心に法灯が灯っているか、どうか、心で判断出来る心造りを全うすることとあります。

偉大な主・高橋信次先生を、永遠にお称え申し上げる道はこの他にはありません。

すべての会員各位には、只今からこの目標のもと、我が命をお捧げする気概のもと、己に厳しいご精進を実践されますよう伏してお願ひ申し上げます。

また、御教えを学ぶ会があっても、果たしてそこには法を基準とした指導が行われているか、どうかをよくよく確かめたい、参加されること指

大事であります。正法の指導には、『文証・理証・現証』の三つが兼ね備わっていなければ、真に正しい正法の指導者とは言えません。これらのことについては、ご著書『心の発見・現証篇』一五六頁に、次のようにお導き頂いています。

『正しい中道の生活努力の積み重ねによって、得ることの出来る正法には、文証と理証と現証の三つが具備されているものだ。文証は、永い歴史を通して、語られ伝えられ記録されてきた、不退転の証である。原始仏典・原始キリスト教のように、後世の学者やゴロ宗教家によって、書き改めたり、ときの権力者達の意志によって歪められたりしたものには、すでに文証の力はなく、心は失われている。

特に、多くの習慣や言葉で書き改められ、各国を経て伝えられてきたものなかには、間違いを犯してしまったもの、変化してしまったものが多

いだろう。特に、仏教は、原始仏教、小乗仏教、大乘仏教などに造り変えられ、他

力本願になった姿を見れば、正しい文証とはいにくいようだ。時代、時代に名前が残っている人でも、皆聖人君子ではないのと似ている。時

代、時代の人間が造り出したものがあるのだ。不変的なものは、人間によって変えることの出来ない神理であり、私た

ちの心のなかに正しく生き続けているものである。

理証は、大自然と人間の在り方を実証し、文証によって示されているもの、といえよう。大自然の法理である、神の心の現れこそ、大自然の理証として現れたものである。

現証は、文証、理証を体得して、生活行為のなかに現れてくるものである。

心の安らぎ、人生の喜び、幸福な生活、調和された社会、人間は皆、神の子として兄弟だという自覚が生まれ、ユートピアが築かれて行く。

その過程には、実在界から現象界の人々に対して、不変的の神理であることの現象が起こってくるものだ。多くの人々によって、奇跡的な諸現象が現れ、病気や心の苦しみから、人々を救う現象が起こってくる。しかも、

法にもとづいて、地獄靈達に光明の道を教え、救う道をも明示する。

万人が救われる道、これこそ正法といえるのである。それは、あたかも太陽のように、慈悲に満ちて、万物万象を、偉大な力で暖かく包み込むように、神の子たる正しい道を示すであろう。』

ここまでお読みくださいました貴方様には、仏教やキリスト教が既に形骸化された意味がお分かり頂けたものと思います。さらには、偉大な主には、法をお説きくださいまして、僅か三二年という短い年月にもかかわら

ず、既に、説かれた儘の真に正しいものよりも間違つたものが遥かに多く横行するようになり、人心を惑わすようになってしまったことは、まさに私達法に帰依させて頂いたものたちの重大な責任であります。ここに平伏して心からお詫び申し上げ、一日も早く世界各地に法灯を掲げさせて頂くよう同志手に手を取り精進努力いたします事をお誓い申し上げます。

私たちが心在る者達は、まず決められた通りに法を学習精進のうえ、その中で日々の生活の中に生かすことが出来ることから実践を積み重ねて行くことが大切であります。そのうえ、自分の心に迷いなどのため道を誤るようなことがないか、どうかについて日々反省に務めるとともに、毎月定例の学修会に参加して学習されることが大事であります。お説きくださいました法を基準にした、教えを学び、一人でも多くの人々に法を伝え、この地上界から永遠に法灯を消してはならないのです。

もしも間違つている人たちを発見したならば、論争するのではなく、愛の心が通じるようならば、諄々と心を尽くして法を基準に、その間違いを指摘し、正しい真実の法へと導いてあげてください。お願いいたします。法灯が消えて行くということは、独り指導者の責任ばかりではありません。学んでいる私たち一人一人にもその責任があります。私たち一人一人が、真剣に法を学び生活の中に生かす実践努力をしてきたか、またその体

験した悦びを周りの人たちに語ってきたか、日常生活の中で真に正しい行動をして来たか、によって直接語りかけないまでも、その言動によって法を消している場合もあることに気付かねばならないでしょう。その責任は重大と言わねばならないでしょう。

偉大な偉大な主・高橋信次先生には尊い御命を削られてのお悟りでありました。そうであれば、人間神の子として最高の法に帰依させて頂いた者として、学ぶ私たちの心の在り方もまた、申し上げるまでもなく身命を捧げた神の子とは言えないのではないのでしょうか。

今生、偉大な主には、この地上界に肉体を持たれてお出ましになられた、またとないこの良き機会に、まずは法に帰依され、正しく生きる道を学び、実践し、常に人に対して、愛の心が持てる自分になれるよう精進努力を積み重ねようではありませんか。

そして、一人でも多くの心在る人たちに、この偉大な法をお伝えしてください。常に出会う如何なる人にも叫んでください。偉大な主には、何時も何時も私たちにその尊い機会をお与えくださっておられるのです。

最後に、偉大な主のおことばを掲げます。

『法は慈悲と愛を喚起する力である。神は無限の慈悲とその力をもって、正法を信ずるものの行く手に、光明の道をひらいてくれよう』

偉大な偉大な主・高橋信次先生のご生誕を称え、

ここにこの小雑誌「はじめての人に」をお捧げいたします。

二〇〇〇年九月二一日

高橋信次先生の法を学ぶ会

代表 丸山 弘

